



平成20年11月6日
バイ対20第83号

国土交通省道路局長 殿

茅野市長
柳平 千代一



今後の道路行政についての意見・提案について
(回答)

国道企第37号で依頼のありました標記の件につきまして、別紙のとおり回答しますのでよろしくお願い致します。

今後の道路行政に付いての意見・提案

様式 ①
長野県茅野市

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1. 理解・共感が得られるような説明と、スケジュール管理の徹底

- ① 「無駄な道路がつくられている」などの批判には、その内容を丁寧に分析し、道路の整備効果を、数字データなどで客観的に検証する。
- ② 投資判断のもとになる事業の評価は、道路整備によるさまざまなメリットを取り入れ、事業効果を的確に分析して、説明するように努める。
- ③ 説明責任を向上するため、例えば今後10年間で実施すべき施策、整備目標や、その達成に必要な事業量を明らかにして、市民の理解が得られるように努める。
- ④ 個別の事業の状況に応じて、開通時期を明らかにし、その達成に向けてスケジュール管理を徹底する。
- ⑤ スケジュール管理や事業費の管理について、担当職員の責任意識をたかめる仕組みを取り入れる。
- ⑥ 事業が遅れる主な原因である用地取得を速やかにおこなうため、土地収用制度を積極的に活用。

2. コストを抑える

- ① 契約方法の改善、新技術の開発、新たな技術を活用した計画や工程の見直しなど、一層コストを減らす努力が必要。
- ② 工期を短縮することで、交通への障害を短時間でなくすように努める。

3. 市民と連携して行政を進める

- ① これまでの行政機関の枠組みや官民の境界を越えた取り組みを積極的に進め、もっと利用者のニーズに合った施策展開を目指す。

4. 道路整備や管理費のあり方

- ① 今の道路をきちんと管理しながら、真に必要な道路整備を進めるためには、必要となる事業費の財源を安定的に確保することが不可欠。
このため道路整備や管理についての市民のニーズを十分に考え、受益者負担の考えに基づく市民の理解が得られる仕組みにすることが必要。

②-1 地域の現状と抱える課題

○ 現状 市の将来の交通体系の充実を目指して、市街地を中心に都市計画道路（23路線、延長約31km）と構想道路（15路線・延長約28km）が計画されています。 23路線の都市計画道路の整備状況を機能的に分類してみると、まず幅員16m以上で整備予定の主要な道路は7路線で、うち4路線は整備が完了しています。他の3路線については、一部区間で事業が完了し、引き続き残る区間の事業を進めています。 幅員9m以上で整備する予定の幹線の道路は13路線で、うち5路線は整備が完了しています。他の路線については、現在事業中のものが3路線あり、全区間で事業化に至っていないものが4路線あります。 さらに、歩行者系の特殊街路は3路線で、2路線が完了し、1路線が一部区間で事業中です。 一方、15路線の構想道路については、いずれも想定されている標準幅員は16mとなっており、1路線は事業中ですが、他の14路線は未着手という状況です。	○ 課題 茅野市の地形的な条件やこれまで市域が形成されてきた経緯などから、東西方向を結ぶ道路（縦道）が市街地周辺に集中しているため、上川の橋梁付近（栗沢橋、公園大橋、上川橋）での渋滞が課題となっています。 特に栗沢橋、公園大橋の整備は市民要望の高い箇所で渋滞緩和策の検討が必至となっています。 また、中心市街地において生活交通と通過交通の混在による渋滞が国道152号線で課題となっています。この抜本的な解決にむけて茅野市ではバイパス整備の構想をしていますが、費用的な面から長期的な視点から取り組まざるを得ない現状があります。 これまで市域では、縦道に対して、南北を方向を結ぶ（横道）の不足が課題でしたが、ふるさとグリーラインの完成や八ヶ岳エコーラインの整備が進む中で解決され、今後こうした横道と国道20号（坂室バイパス・金沢バイパス）を結ぶことにより、市の南北軸の交通と環状機能の強化が課題となります。
---	--

今後の行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

茅野市の道路網については、東西都市軸として国道299号線、南北都市軸として国道152号、ふるさとグリーンライン、主要地方道茅野北杜韭崎線、八ヶ岳エコーライン、県道富士見原茅野線がそれぞれ骨格軸として位置付けられ、広域ネットワークの形成の観点からすべての道路の早期完成が望まれます。また、国道20号坂室バイパス完成後においては、主要国道の整備として金沢バイパスの早期整備が望まれます。

市内には、身近なレクリエーションの場として、また市街地回遊によるまちの活性の観点から、公園や史跡などをつなぐグリーントレイルの整備構想が都市マスや緑の基本計画等で示されています。

今後における道路整備として、こうした歩行者系のネットワークの形成にも配慮して進めていく必要があります。

道路計画の中には計画以来、40年以上に長期にわたり整備に未着手の路線があります。

こうした長期未着手の道路には建築制限により土地所有者の土地利用を長期に制限しているという問題があります。また、年月の経過の中で、計画段階で想定した整備効果が必ずしも期待できるとは限らず、既に代替機能をもつ道路が存在する等の要因から、道路として整備する必要性が薄れてきている可能性も否定出来ません。

現在、道路の整備率は56%という状況です。道路の整備は、各事業体（国・県・市）において鋭意事業を進めています。が、予定では現在事業中の路線はすべて平成22年度末には完成することになっています。そこで、平成24年度末の整備率を計算すると約70%となる見込みです。

このように、平成24年度末における、実質的な整備率は、現在と比して相当進展すると判断しますので、市としては、こうした判断のもとに、国・県に対して各路線の着手・完成を強く要望していきます。

③道路の施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価）

○ 重点事項 地域活力の向上	○ 代表事例 茅野市の中心市街地では市街地再開 発事業が行われ、再開発ビル、駅舎、駅 前広場などが整備されている。しかし街 路整備や面的な市街地整備が遅れてお り、中心市街地へのアクセスの悪さが問 題となっている。また、人口が延びない、 商業の衰退、土地利用の沈滞、集客資源 の欠如など、総合的な活力低下減少を示 している。 今回の中心市街地活性化事業は、個別 対策ではなく統合対策である。そして従 来とは違った新しい発想である。これま で遅れていた街路整備や商店・住宅の居 住環境の整備を柱に、高原都市の景観づ くりなどをハードとソフトの両面から 総合的に行う中心市街地の再構築事業 を茅野駅中心として行っている。	○ 期待する効果や評価 高原の自然環境と歴史、文化を大切に しながら交流拠点としてのまちの基盤 をつくる。ハケ岳を背景とした高原なら ではのダイナミックな景観や高原やま ちにふさわしい国道20号、国道152 号、国道299号と円滑に市街地と連絡 する道路の整備や、茅野駅東西の中心市 街地の交通アクセス条件を高める市街 地環状道路の整備をすることにより市 街地沿道の土地利用に見合った快適で 魅力ある市街地道路軸により、街なか に居住を誘導しながら地域交流拠点に ふさわしい道路基盤整備を促進し、永続 的な住まい、あるいは学生や単身者など にも便利な道路環境を提供する。	○ その他
-------------------	---	--	-------